

いわゆる

Java有償化の解説と 製品対応のご説明

DATA LOGISTICS, MODERNIZED

株式会社セゾン情報システムズ
HULFT事業部

目次

■ はじめに

■ Javaの有償化とは

いわゆるJavaの有償化について、Javaの成り立ちから丁寧に解説しています。
Java有償化とは何か、本質をご理解いただけます。

■ 当社製品の対応について

当社セゾン情報システムズの製品について、
製品ごとの方針とお客様が要する対応を説明しています。

■ FAQ

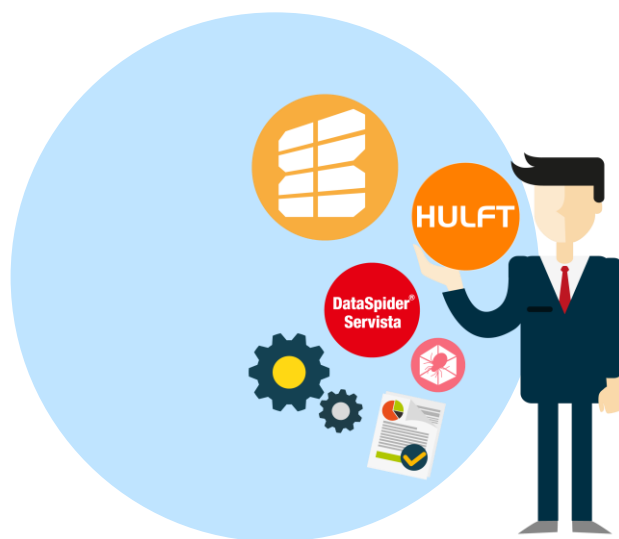
はじめに

■ 目的

本書は、いわゆる「Javaの有償化」に対して、お客様の疑問点を解消し、必要に応じて対応すべき内容をご案内するための資料です。

■ 対象

- 当社製品をご購入・ご利用いただいているお客様
- 当社製品のご購入を検討されているお客様

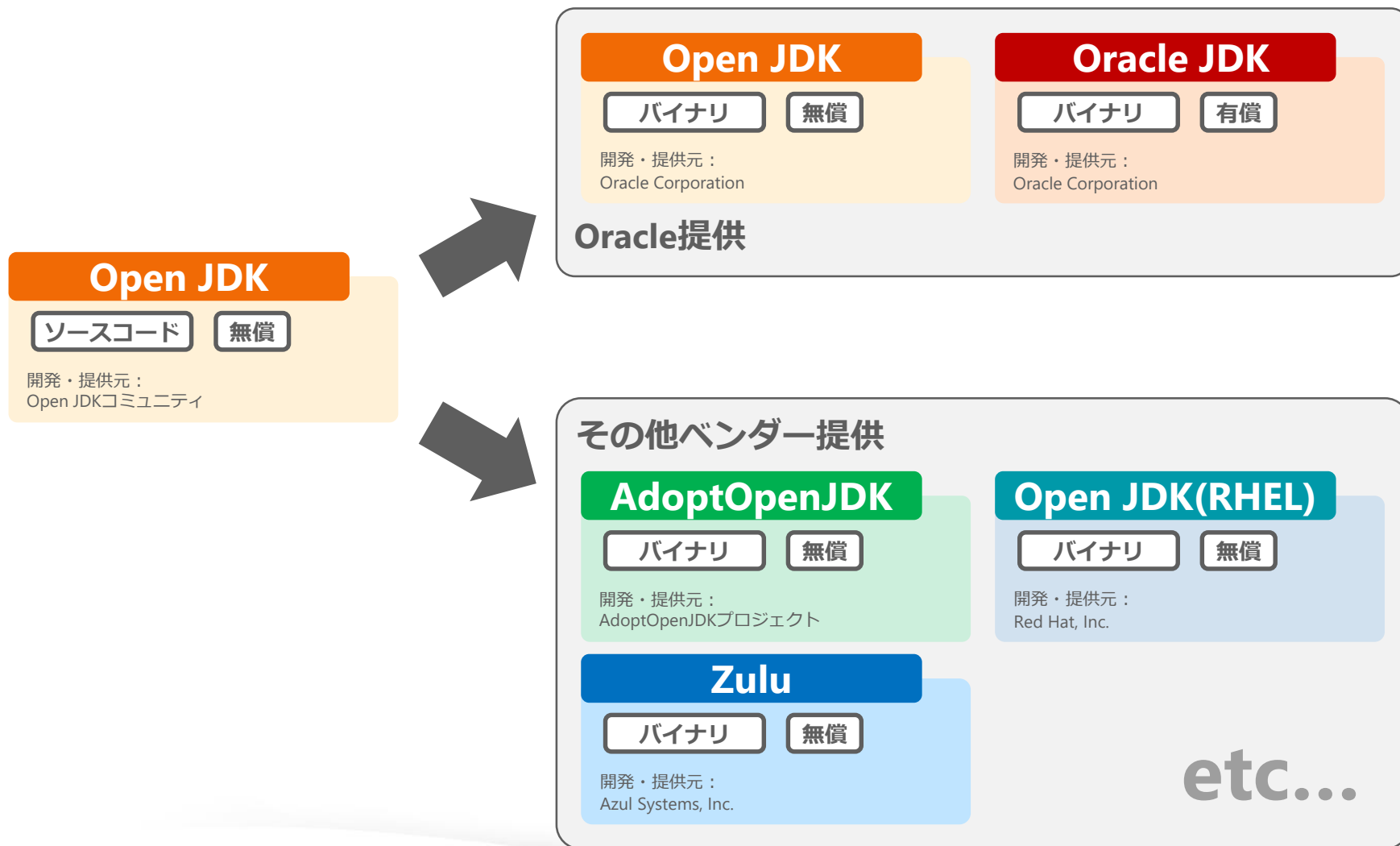


Javaの有償化とは

Preamble

Javaの作られ方

全てのJDKバイナリはOpen JDKソースコードを元にビルドされています。



Javaの有償化とは

Oracleが提供するJDKは、Java 9以降

Oracle JDK

と

Open JDK

の2種類となりました。

Oracle JDK

は、商用利用の場合、Oracleとのサポート契約が必要な有償のJDKです。有償ですが、Oracleからの長期サポート（LTS: Long-Term-Support）を受けられるというメリットがあります。

Open JDK

は、無償で利用できるJDKです。
Oracle JDKと機能自体に差はありませんが、サポート期間は6ヶ月間（次のバージョンがリリースされるまで）です。



つまり、Javaが有償化したのではなく、Oracle JDKのリリースモデルが変更され、**Oracle JDK** の商用利用が有償化したということです。

Oracle JDK リリースモデル変更 流れ

2017年9月 OracleがJDKの新リリースモデルを発表、段階的に移行を開始

2018年9月 JDK11を公開し、JDK11は新リリースモデルに完全移行

2019年1月 旧リリースモデルJDK8の公式アップデート終了

Java SE 8 Update 201 : 無償で商用利用できる最後のアップデート

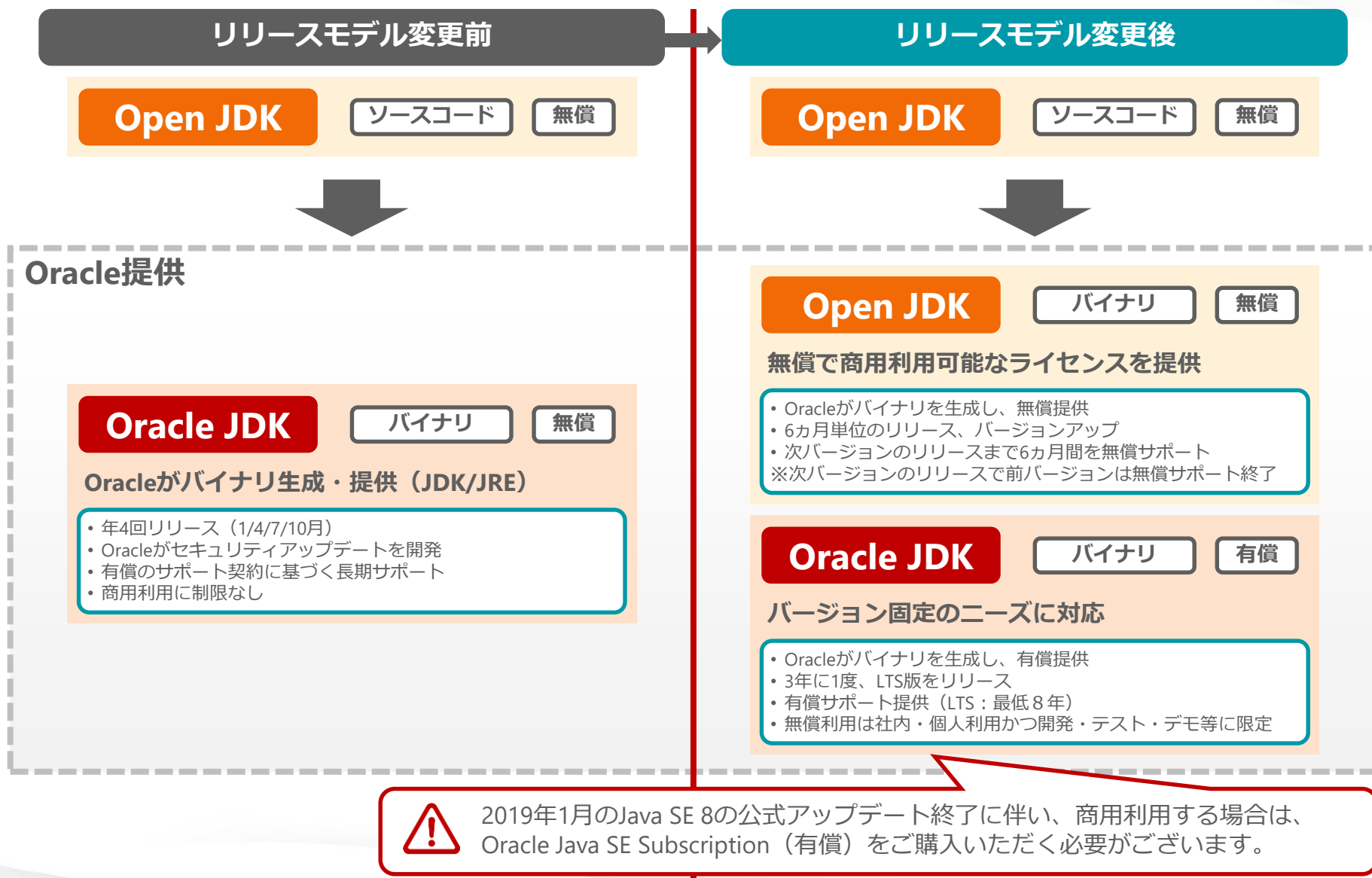
2019年4月 アップデートにより、JDK8に新リリースモデルが適用

Java SE 8 Update 211 : 本アップデートより商用利用する場合は有償



リリースモデル変更により、Oracle JDKの商用利用は有償となりました。
新リリースモデルは、JDK9のリリースから段階的に適用されます。

Oracle JDK リリースモデル変更 イメージ



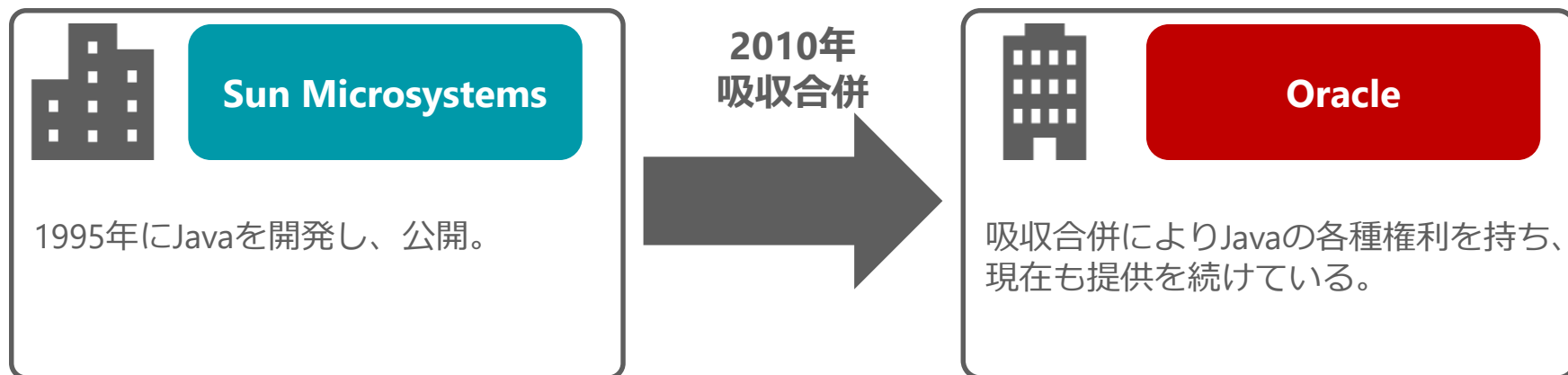
そもそも、Javaとは

■ プログラミング言語のひとつ

Javaとは、世界中で多く使われている人気のプログラミング言語およびコンピューティング・プラットフォームです。

「汎用的でOSに依存しない」などの特徴を備えており、現在では、Javaをインストールしないと機能しないアプリケーションやWebサイトが数多く存在します。

1995年に米国のSun Microsystems社が開発し、2010年に同社がOracleに吸収合併されたため、その後はOracleがJavaを提供しています。



JREとJDK

■ JRE = 実行環境、JDK = 開発・実行環境

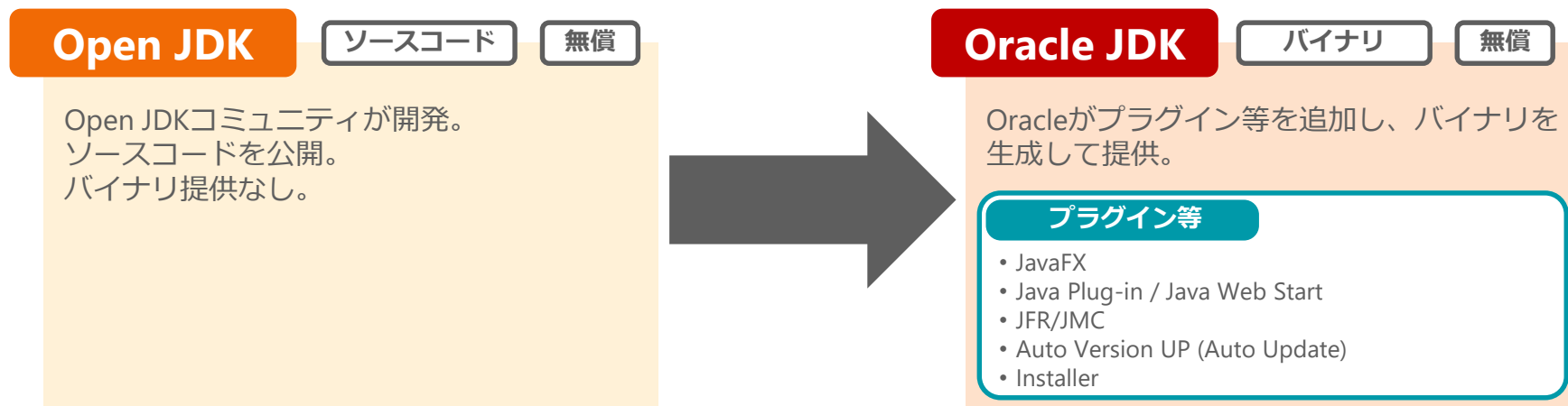
- JRE (Java Runtime Environment) とは
「Javaで作られたアプリケーションを動かすために必要なソフト」です。
Java言語で書かれたプログラムを動かすために必要なプログラムとなります。
- JDK (Java Development Kit) とは
「Java言語でプログラムを組む際に必要なソフト（開発キット）」です。
Java言語でプログラムを書く場合、JDKが必須となります。
※JDK内にはJREも含まれています。



Open JDKとOracle JDK

■ ソースコードを元にバイナリをビルド

- Open JDKとは
Javaを開発するオープンソースプロジェクトと、その「ソースコード」です。
プロジェクトではバイナリ提供を行っておらず、Oracleをはじめ、Red Hat、Azul Systems、AdoptOpenJDKコミュニティ等がビルドし、提供しています。
- Oracle JDKとは
Open JDKにOracleが機能やインストーラーを追加し、「バイナリ」提供しているものです。



従来のOracle JDK

■ 一部の開発機能以外は無償提供

リリースモデル変更前、Oracleから提供されるJDKバイナリ（Oracle JDK）は一部有償の機能はあったものの、実行環境としては実質無償で使えており、セキュリティの脆弱性やバグ修正などに対応するアップデートパッチも長期に渡り無償提供されてきました。

そのため、従来のOracle JDKは、セキュリティを確保し、後方互換性を維持しながら、長期間安定して無償で利用できるものとして認知され、利用されてきました。

Open JDK

ソースコード

無償

Open JDKコミュニティ（Update Project）がアップデートリリースを提供しているが、定期ではなく、Oracle JDKと完全に一致した内容ではない。

Oracle JDK

バイナリ

無償

Oracleがセキュリティ・アップデートを開発し、バグフィックスや機能追加を含む年4回のリリースを行っていた。
（1月、4月、7月、10月）

リリースモデル変更後のOracle JDK

Oracle JDKの商用利用は有償に

リリースモデル変更前、Oracle JDKのライセンスはBCL(Oracle Binary Code License)が適用されており、JDK/JREの再配布に制限がかかるケースがありました。

リリースモデル変更後は、Open JDKバイナリの無償提供を開始し、オープンソースライセンスであるGPL(GNU General Public License)を適用しました。また、Oracle JDKは、原則有償となるかわりに、Oracleによるサポートが受けられるようになりました。

リリースモデル変更前

Oracle JDK

バイナリ

無償

【ライセンス】 BCL (Oracle Binary Code License)もしくは**商用ライセンス**

【サポート】 Oracleによる**無償**サポート

リリースモデル変更後

Open JDK

バイナリ

無償

【ライセンス】 GPL (GNU General Public License) v2 + Classpath Exception

【サポート】 Open JDKコミュニティによる**無償**サポート

Oracle JDK

バイナリ

有償

【ライセンス】 OTNLA for Oracle Java SE (Oracle Technology Network License / JDK11 ~)もしくは**商用ライセンス**

【サポート】 Oracleによる**有償**サポート

OracleのLTS(Long-Term-Support)

■ Oracleの長期サポート

OracleのLTSとは、Oracleの提供する長期サポートのことです。
リリースモデル変更後、Javaにも適用されることになり、基準となる製品出荷開始日※から5年間のPremier Support、Premier Support終了から3年間のExtended Supportがあり、最大で8年間となります。なお、Java SE 8 より後の製品リリースで、Oracleは3年ごとのリリースに対して、LTSリリースを予定しています。

※利用開始日に関わらず、サポート終了期間は固定となります。

Oracle Java SE 製品（LTS）のサポート

製品出荷開始日

5年間

3年間

無期限

Premier Support

Extended Support

Sustaining Support

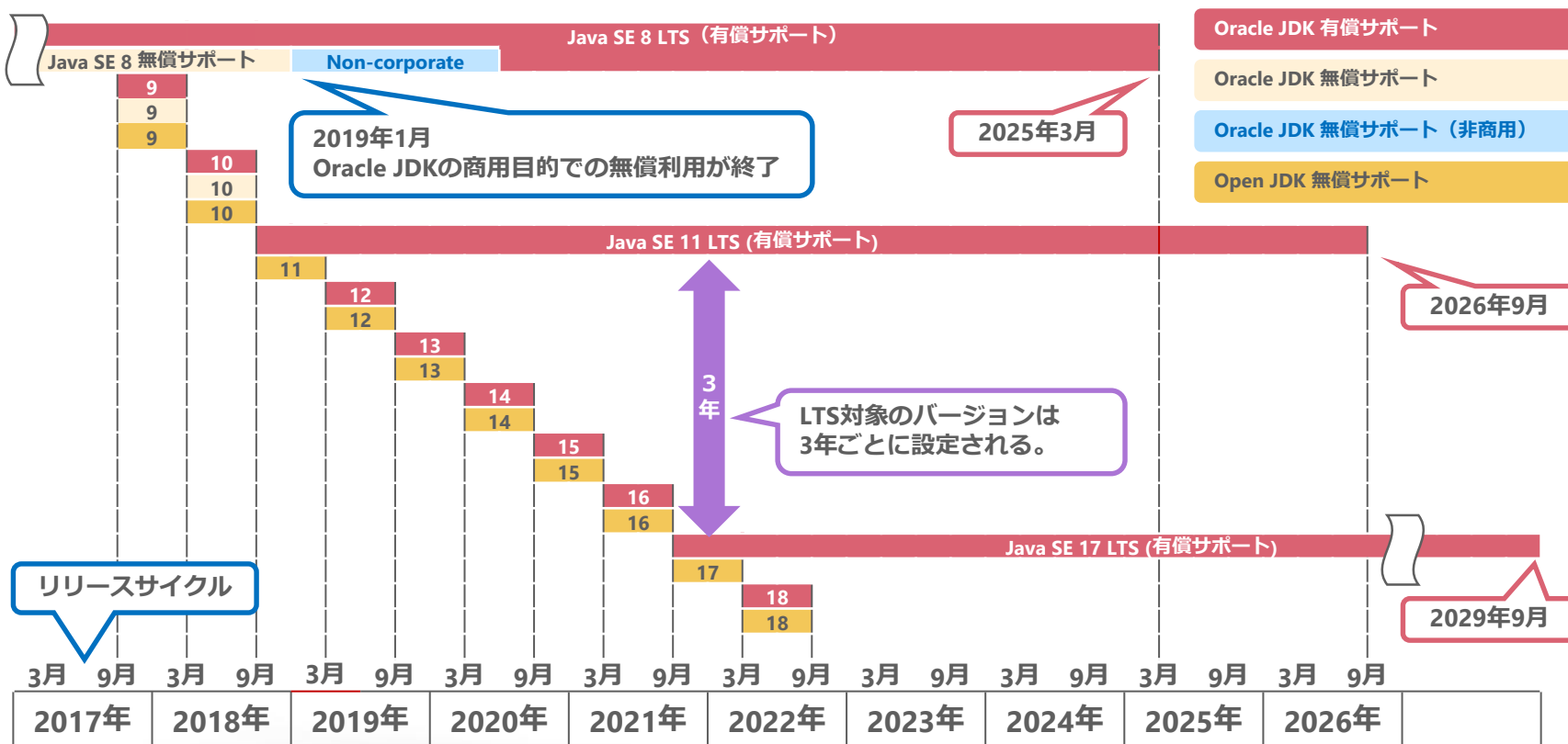


Oracle Java SE サポート・ロードマップ

<https://www.oracle.com/technetwork/jp/java/eol-135779-ja.html>

Oracle JDK 有償サポートの提供

新機能が追加される6カ月に1回（毎年3月と9月）のフィーチャー・リリースに加え、脆弱性対策などを施したアップデート・リリースを各フィーチャー・リリースに対して2回提供。Oracleが無償提供するバイナリのアップデート期間は、JDK 9以降は、後継バージョンがリリースされるまでの半年となります。LTS(Long-Term-Support)は、Open JDKでは利用することが出来ず、Oracle JDKの有償サポートのみとなります。



Oracle JDK リリースモデル変更まとめ

		リリースモデル変更前	リリースモデル変更後
リリースサイクル	バージョンアップの間隔	2年に一回（目標）	- Open JDK 6カ月に一回 - Oracle JDK (LTS) 3年に一回
	バイナリ（ライセンス）	Oracle JDK (BCLもしくは商用ライセンス)	- Open JDK (GPLv2 + Classpath Exception) - Oracle JDK (OTNLA for Java(JDK11~)もしくは商用ライセンス)
	無償更新期限	後続バージョンリリース後一年	後続バージョンリリースまで
長期サポート	対象のリリース	すべてのバージョンが対象（～JDK 8）	JDK11以降、3年間隔でリリースされるLTSバージョン（ただし、長期サポートは過去を含む全てのバージョンに適用される）
	バイナリ	Oracle JDK	
	更新期間（有償）	Oracle Lifetime Support Policy 準拠（最低8年）	
アップデートリリース	リリース時期	年4回（1月、4月、7月、10月）	
	内容	アップデートリリース + 限定機能更新	アップデートリリースのみ

Oracle Java SE Subscription

Oracle JDKを商用利用する場合は、Oracle Java SE Subscriptionの購入が必要です。
詳細は下記ウェブサイトをご参照ください。

提供されるもの

- 商用ライセンス
- サポート
- 商用機能・ツール



商用ライセンス



サポート



商用機能・ツール

価格体系

- 月単位のサブスクリプション（年単位の契約）
- 課金単位
 - デスクトップ・・・NUP(Named User Plus)
 - サーバー・・・Processor



Oracle Java SE Subscription

<https://www.oracle.com/jp/java/java-se-subscription.html>

当社製品の対応について

Correspondence of our products



最新情報は、下記URLをご参照ください。

http://faq.hulft.com/faq/show/29775?site_domain=sales_jp

当社製品でサポートするJavaの選定について

Javaは、Oracleをはじめとした様々な団体がビルドし、提供しています。

当社製品では、数多くあるJavaのバイナリから、下記JDKをサポート対象として検討しています。

Oracle JDK

最も普及しているJavaとして、また、有償となりますが、LTSによりバージョン固定した状態での長期運用が可能となるため、サポート対象とすることを検討しています。

ダウンロードURL

<https://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html>

AdoptOpenJDK(HotSpot)

無償で利用できるバイナリを提供しているAdoptOpenJDKプロジェクトには、スポンサーとしてJavaシステムを多数リリースしているIBM、Microsoft、Azul Systemsが参加し、バックアップしており、今後のプロジェクト運営に懸念が少ないと言われています。

さらに、いち早くJava11のLTSに関して4年間のサポートを表明しているため、AdoptOpenJDK(HotSpot)は、長期サポートを受けられるOpen JDKとして、サポート対象とすることを検討しています。

※HotSpotとは、Java仮想マシン(JVM)の種類を表しています。

AdoptOpenJDKは、対応するJava仮想マシン(JVM)の違いにより、IBMが支援するJVMである「Eclipse OpenJ9」とOracle JDKでも使用されているJVMである「HotSpot」の2種類のバイナリが提供されています。当社製品では「HotSpot」のみをサポート対象として検討しています。

ダウンロードURL

<https://adoptopenjdk.net/>

製品ごとの方針（1/3）

■ Javaを使用していない製品

下記製品につきましては、Javaを使用していないため、いわゆるJava有償化の影響はございません。

製品名	Javaに関する方針
HULFT	Javaを使用していないため、影響はございません。
HULFT-HUB	
HULFT-SAN	
DataMagic	
SIGNALert	

製品ごとの方針（2/3）

■ Javaを同梱している製品

Javaを同梱している製品は、Open JDKを同梱します。
長期サポート（Long-Term-Support：LTS）が提供されたディストリビューション（AdoptOpenJDK 等）のいずれかを採用する予定です。
Oracle社の有償サポートを別途契約する必要はありません。製品の動作に影響するJavaの不具合や脆弱性については、回避策または製品の修正版モジュールが提供されます。

製品名	Javaに関する方針
HULFT IoT	Open JDKを同梱します。 長期サポート（Long-Term-Support：LTS）が提供されたディストリビューション（AdoptOpenJDK等）のいずれかを採用する予定です。
HULFT Script	
DataSpider Servista	
DataSpider for Tableau	
DataSpider Mini for Excel	
Thunderbus	
PIMSYNC	

製品ごとの方針（3/3）

Javaを同梱していない製品

下記の方針にてリリース対応を行い、サポート対象を確定します。
Oracle JDKにつきましては、長期サポート（Long-Term-Support : LTS）がサポート対象となります。別途、Oracle社の有償サポートへの契約をご検討ください。

対応完了している製品

		サポート対象	
製品名	製品バージョン	Oracle JDK(LTS)	Open JDK
HULFT-WebConnect	2.3.0	Oracle JDK 8 Oracle JDK 11	AdoptOpenJDK 11 (HotSpot)
HULFT-WebFileTransfer	3.2.0	Oracle JDK 8 Oracle JDK 11	AdoptOpenJDK 11 (HotSpot)
DataSpider BPM	2.5	Oracle JDK 8	AdoptOpenJDK 8 (HotSpot)

対応予定および検討中の製品

		サポート対象	
製品名	製品バージョン	Oracle JDK(LTS)	Open JDK
HDC-EDI	検討中	Oracle JDK 8	検討中

お客様が要する対応 一覧

	製品名	お客様が要する対応
Javaを使用していない製品	HULFT	対応の必要はありません。
	HULFT-HUB	
	HULFT-SAN	
	DataMagic	
	SIGNALert	

	製品名	お客様が要する対応
Javaを同梱している製品	HULFT IoT	Javaの不具合や脆弱性が製品の動作に影響する場合は、回避策または製品の修正版を当社より提供いたします。
	HULFT Script	
	DataSpider Servista	
	DataSpider for Tableau	
	DataSpider Mini for Excel	
	Thunderbus	
	PIMSYNC	

	製品名	お客様が要する対応
Javaを同梱していない製品	HULFT-WebConnect	Javaの不具合や脆弱性に対する回避策またはJavaのアップデートをお客様にて実施いただきます。
	DataSpider BPM	
	HULFT-WebFileTransfer	
	HDC-EDI	

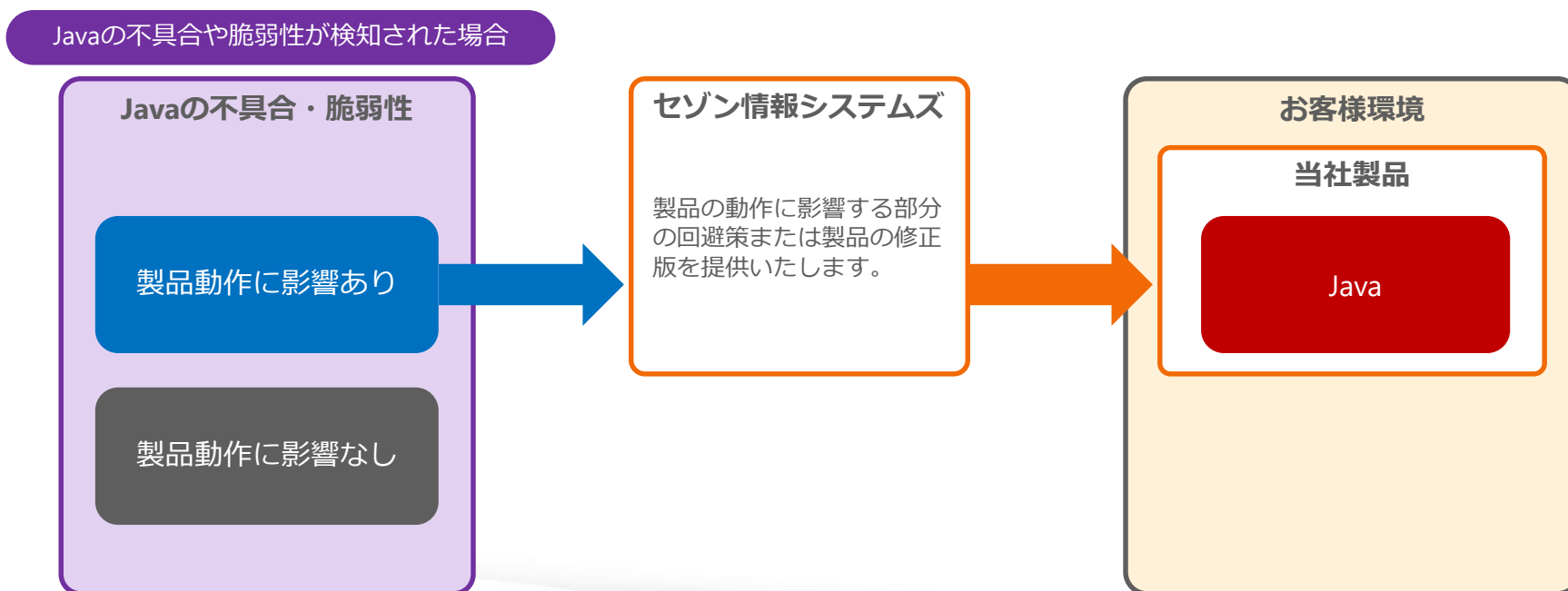
お客様が要する対応（1/2）

Javaを同梱している製品

Javaを同梱している製品はJavaを製品の一部として同梱しておりますので、製品を利用するにあたって、お客様が独自にJavaのサポート契約に入る必要はありません。

Javaに不具合や脆弱性が検知された場合、その不具合や脆弱性が製品の動作に影響する場合は、回避策または製品の修正版を当社より提供※いたします。

※Java有償化以前と同様です。



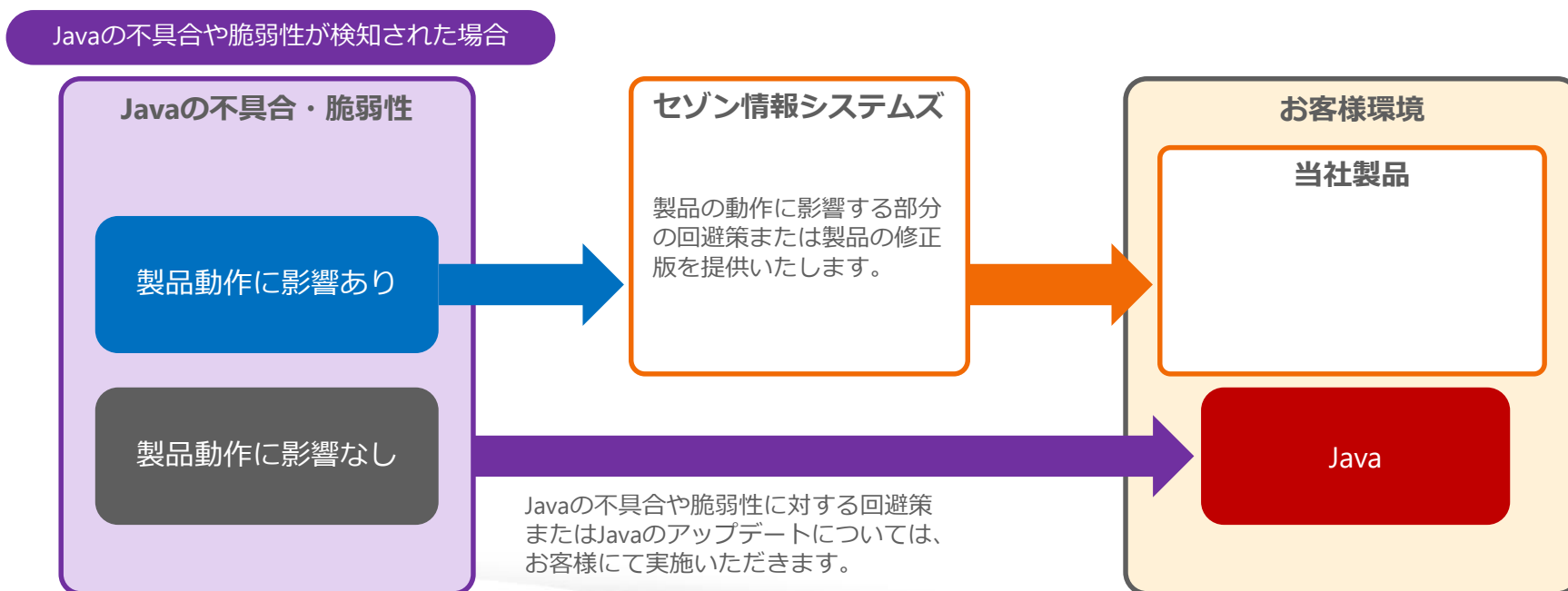
お客様が要する対応（2/2）

Javaを同梱していない製品

Javaを同梱していない製品に関しては、お客様自身で当社がサポート対象とするJavaをご用意※いただきます。

※Oracle JDKの場合は、長期サポート（Long-Term-Support：LTS）リリースをご用意ください。

Javaに不具合や脆弱性が検知された場合、それに対する回避策またはJavaのアップデートをお客様にて実施いただきます。



FAQ

Frequently Asked Questions

Javaを同梱している製品

質問	回答
ユーザーは、Javaの不具合や脆弱性が検知された場合、どうすれば良いですか？	当社より製品の動作に影響する部分の回避策または製品の修正版を提供いたします。修正版の適用をお願い致します。

Javaを同梱していない製品（1/2）

質問	回答
ユーザ側で用意するJavaは無償で入手可能ですか？	ご利用のJavaによって異なります。 • Oracle JDK Oracle JDKは、商用利用をするために「Java SE Subscription」と呼ばれる有償サポートサービスに加入する必要があります。 【ダウンロードURL】 https://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/index.html • AdoptOpenJDK AdoptOpenJDKは、無償でダウンロード、商用利用が可能です。 【ダウンロードURL】 https://adoptopenjdk.net/

Javaを同梱していない製品（2/2）

質問	回答
Javaの不具合修正パッチの入手、適用はユーザー側の対応との事ですが、その際はJavaのサポートに加入していないとパッチを入手できないのですか？	Javaの不具合・脆弱性に対する回避策またはJavaのアップデートについては、お客様にて実施いただく必要がございます。 • Oracle JDK Oracle JDKは、「Java SE Subscription」と呼ばれる有償サポートサービスに加入する必要がございます。 • AdoptOpenJDK AdoptOpenJDKは、無償でパッチ提供（アップデート）を受けることが可能です。
御社の製品でエラーが発生しましたが、原因が不明です。 Javaが原因の場合はサポート対象外との認識ですが、問合せしてもよろしいですか？	お手数ですが、お問い合わせください。 原因の切り分けを行います。

その他

質問	回答
有償化以前のJavaをアップデートしなければ、無償で商用利用を続けられるのでしょうか？	旧リリースモデル（新しいライセンスが適用になる以前）のバイナリについては、BCLライセンスのもとで利用し続けても構いません。 しかし、アップデートを行わない場合、Javaの不具合・脆弱性に対する回避策がなされないまま商用利用をすることとなります。 よって、セキュリティ問題への対応がなされないため、実稼働環境での利用は推奨されません。 また後々、新バージョンのJavaに移行することになった場合、旧バージョンとの機能差がより開いている状態となるので、バージョンアップによる影響が大きくなることも予想されます。 ※当社の製品については前章「当社製品の対応について」をご参照ください。

参考資料

当資料は、下記ウェブサイトを参考にして作成しております。（2019年12月11日時点）

- Oracle Java SE サポート・ロードマップ
<https://www.oracle.com/technetwork/jp/java/eol-135779-ja.html>
- Oracle Java SE Subscriptionの紹介
<https://www.oracle.com/jp/java/java-se-subscription.html>
- Oracle Java SE Subscription FAQ
<https://www.oracle.com/technetwork/jp/java/javaseproducts/overview/javasesubscriptionfaq-4891443-ja.html>
- Java SE ダウンロード（Oracle JDK のライセンスに関する重要な変更）
<https://www.oracle.com/technetwork/jp/java/javase/downloads/index.html>
- JDK 新しいリリースモデル解説（ver. 2.2）
<https://www.slideshare.net/oracle4engineer/jdk-ver-22>



つながる価値、ひろがる未来。

HULFT

お問い合わせ先

株式会社セゾン情報システムズ
HULFT事業部

- ◆ フリーダイヤル
- ◆ URL
- ◆ E-mail

 **0120-80-8620**
www.hulft.com
info@hulft.com